

地域を火災から守る —春の火災予防運動—



▲美山支団で行われた火災想定訓練

三月一日から七日までの一週間、全国一斉に「春の火災予防運動」が行われ、南丹市消防団（奥村睦夫団長）では二月二十五日に八木支団で、三月一日に園部支団、三月四日には日吉・美山支団で防火パレードを行ったほか、園部・美山支団では非常招集訓練などを行いました。

このうち美山支団では、地域の高齢者世帯を団員が訪問し、消火器の点検や火の元の点検を行う啓発活動を行いました。また、各分団ごとに火災を想定した訓練を行い、参加した団員たちは熱心に取り組んでいました。



▲虐待防止の取り組みが話し合われました

地域と連携し虐待を防止

—南丹市高齢者虐待防止ネットワーク—

三月二十六日、南丹市高齢者虐待防止ネットワーク会議が行われました。会議には、民生児童委員会や老人クラブなどから十五人の委員が出席し、会長に吉田義一さん、副会長に視測八重子さんが選任されました。会議では、南丹保健所から南丹市内における虐待は近隣の市町と比べて少ないことが報告されました。

しかし、高齢化社会を迎え、南丹市でも虐待が増加する可能性があります。啓発活動や地域との連携強化に取り組むことが、会議で話し合われました。



▲早川一光さんが「怒らないことが大事」と講演

講演で早川さんは「寝たきりになると認知症になりやすい。介護する方もあまり怒らないことが大事」と話されました。また、江村さんは寝たきりの奥さんの介護をされ、「家族を介護するときに、一生懸命になると介護する方が参ってしまう。大事なのは『ほほどほど』ということ」と自身の体験を語られました。

家族の介護は

“怒らず” “ほほどほど” に

—南丹市家族介護者教室—

在宅で介護をされている方や、介護に関心のある方、介護に対する知識を広めたい方などを対象に、「南丹市家族介護者教室」が三月に市内の各地で行われました。



▲自身の介護体験を語る江村利雄さん